



幸せな贈り物

人質産業 (hostage industry) 人が人を

金もうけだと感じる時代

のろいを幸せだと勘違いする人々 いくつか私たちの社会に「人身売買」という言葉が流行った時がありました。人が人を取って来て、人によって金もうけをした時代、これからはそんな必要がないと言います。なぜでしょうか。若いお嬢さんたちが身を売ると自分の足で尋ねて来るからです。

世の中はますますお金という化け物の前に、人間という存在感さえ喪失して行っています。その代表的な例が、今、流行っている「人質産業」です。4月4日インド洋の海上でソマリア海賊に拉致されたサンホ・ドリーム号(32万トン級原油タンカー)が216日ぶりに釈放されました。ソマリアの「人質産業」は、6日一日の間でだけ1850万ドル(約15億4千万円)を稼ぎました。サンホ・ドリーム号950万ドル、シンガポール船積みの荷船900万ドルの身代金が準備されたのでした。ソマリア海賊たちは今年に入って37隻の船を拉致して身代金を受け取ったのですが、この中の相当な部分は海賊の力を養う武器と船舶購入に再投資されています。1991年の内戦以後、継続するソマリアの無政府状態と3,000キロメートルに達する海岸線は、海賊たちの温床になってしまいました。世界最貧国のひとつのソマリア(1人当たりのGDP600ドル)で海賊事業は国民の70%が支持する事業で、一種の地域共同体運動になっている中で、昨年ハラデレには「海賊企業」にお金や武器などを投資して利益を配当してもらう証券市場が開かれ、現在、百個あまりが上場されて盛況だというこ

とです。大部分が20~35歳の若者達で構成された海賊は、豪華な生活を楽しんで、通常2~3人の若い妻を従えて、海岸に高級住宅を建てて外車で走りまわっているということです。イギリスの日刊インデペンデントは人質産業(hostage industry)は年間の売上げ規模が10億ポンド(約130億円)に至り、ますます栄える産業だと明らかにしました。この産業の原資材は、「保護を受けることができない人」で、彼らは誤った場所に、誤った時間にいたという理由で、彼らを狙う人々には「歩いて通う黄金」と呼ばれています。人質産業は、メキシコからソマリア、イラクからフィリピンに至るまで、多くの国で国際救護要員や西側企業従事者、観光客、現地人などを対象に流行しています。メキシコの場合2008年にだけで7000名以上、ナイジェリアで1000人、ソマリアでは外国人たちが毎月106名ずつ拉致されています。要約すれば、全世界的で毎年、少なくとも1万2000人が拉致されています。10月17日現在、外国人400人を含めて2000人あまりがその場しのぎで作られた「監獄」で、いつ釈放されるかもわからないまま、また次の日を待っています。彼らが安全に釈放されるために、誘拐犯に支払う身代金は多額で、ますます高くなっています。拉致が盛んになることによって、連関産業も一緒に成長しています。拉致と身代金をまかなう保険会社も生じて、高額をもらう交渉専門家や弁護士、個人用心棒もいっしょになって好況です。アメリカ経済新聞紙フォーチュン(Fortune)

が発表したアメリカ 500 大企業の中、拉致と身代金関連保険に加入した企業は4分の3にもなっており、拉致と身代金関連の保険料に支払われた金額は、全世界的に4億ドルに迫ると言われています。

海賊をして、その身代金を味わう人々の幸せが、はたして幸せなのでしょう。幸せに包装された、また別の呪いであるだけです。それなら、いつそのような罪の呪いが始まり、その解決策はなんなのでしょう。

呪いの開始と罪問題の解決策 すべてのものには創造原理があると聖書は言っています。魚は水の中に、木は根を地の中に、鳥は空中を飛びながら生きて行く時に幸せなのが創造原理です。聖書は、私たちの人間も神様ともいるときに幸せなのが創造原理であると言っています。魚が水を離れ、木の根が地から抜かれる瞬間から、すべてのものが不幸の条件になるように、人間も神様を離れる瞬間、すべての不幸は私と関係なく尋ねて来るようになるのです。これが人間に最大の罪で、根本的な罪だと言われています。

人々はよく不幸にあえば罪のせいだと言います。聖書は人間の罪を三つで言っています。そして、それがまさに人間の不幸の根であることを明らかにしています。一番目、原罪です。原罪というのは、私たちの犯した罪ではない、アダムとエバが罪を犯した後から伝わっている罪を言います。たとえば、昔、奴隷の家に子どもが生まれれば、当然、奴隷になったことと同じです。原罪は神様を離れた罪で、永遠に呪われるしかない罪です。自分の知らない間にサタンに捕らわれてその影響を受けるしかない恐ろしい罪です。それで、原罪に陥った人間は、サタンのしわざで呪われるようになって、偶像崇拜、先祖供養、お守り、お祓い、占い、迷信、宗教などに陥って、苦難を受けて子孫三代、四代まで呪いの遺産を伝えていく霊的な相続を残すようになります。二番目、自分が犯す罪です。原罪の結果で人間にやってきた罪の性質と罪の欲求によって犯すようになる生きている中での罪です。三番目、先祖の罪です。家

系に伝えられてきた偶像崇拜によって、子孫に災いを及ぼすしかない罪を言います。その結果、親譲りとも言われる、家系に流れる変な呪いと災いが下るようになったのです。それなら、人間の不幸の根である罪は、どのように解決することができますか。

聖書はきっぱりと語っています。「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」(ローマ人への手紙 5:8) 人間が神様を離れた罪を解決するために会う道を開いてくださいました(ヨハネの福音書 14:6)。人間に押し寄せてくる不幸と呪いの問題を解決して下さるために十字架で私たちの罪を代わりに受けて死んでくださいました(マルコの福音書 10:45)。そして、復活することによって、罪の根本の根であるサタンの権威を打ちこわして解放される道を開いてくださいました(ヨハネの手紙第一 3:8)。

その方がまさにイエス・キリストです。イエス・キリストを信じる瞬間、人間は罪と死の原理から、罪責感と罪の力から解放されて(ローマ人への手紙 8:2) 神様とともにいる一番美しい人生を生きて行くようになります。それがまさに人間に与えられた本当の幸せであり、祝福です。「**神様はあなたとともにいることを願っておられます。あなたは大事な人です。**」

「神は、私たちを暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

この御子のうちにあつて、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得ています。」

(コロサイ人への手紙 1:13-14)



出会いが重要なのは 未来が込められているから です

四肢麻痺障害者で、アメリカ東部のボルティモアにある世界最高の病院であるジョーンズホプキンス病院のリハビリ医学科首席専門医のドクターリー、イ・スンボクさんについての本を読みました。移民 1.5 世で、祖国の大韓民国に対する愛と愛国心、そして親に対する親孝行と家族愛などが動機となって幼い時から体操をするようになりました。とても努力した結果、嘱望される選手への夢をはぐくみながら、憧れの祖国大韓民国のオリンピック体操代表選手としての栄光を控えて練習する中、不意の事故で四肢麻痺障害者になったのですが、その逆境に勝って、結局は体操ではない、他の人生のオリンピック代表選手である医師への道に挑戦し、その夢をつかむようになります。彼の話が私に多くの感動と考えを与えたのですが、その中でも私に一番心に触れた部分がありました。彼が車椅子に乗ってニューヨーク大学に通う中、試験期間のキャンパスで忙しい彼の車椅子を止めた人がいました。その学生は、ネビゲイト宣教会のある伝道者でした。そのころ、イ・スンボクさんは 10 年くらい韓国人教会に通っていたのですが、特別な信仰もなく、なんとなく漠然とした信仰で教会生活をしていたのです。しかし、その日、ユダヤ人出身のある伝道者を通して正確な福音を聞くようになり、その場で心からイエス様を受け入れることによって、霊的に新しく生まれる体験をするようになりました。「忙しいようですが、しばらくお話をちょっとできませんか？とても重要な話です」「私にはあなたと分かち合いたいことがあります。それを聞けば、あなたの人生が変化することができます」「あなたに神様がだれなのか、イエス様がどんな方かとてもやさしく説明してあげましょう」1987 年 4 月 27 日、ある伝道者を通じて福音を聞いて、理解して受け入れるようになって、彼は生まれ変わるようになったと、本でその出会いを記録していたのですが、私はしばらくそのページをめくらずに何回も読んでまた読みかえました。

多くの出会いがあって、その中でも重要な出会い、意味ある出会いが多いのですが、一番意味があって大事な出会いは私の人生を変える出会いです。ヒトラーは若い時代、純粋な画家志望の学生だったのですが、お母さんの病気を直すために跳びこんだ産業現場での誤った出会いのため、ユダヤ人に対する恨みを抱いて、一生涯、後悔するしかない人生の道に行ってしまいました。人間の運命と運勢を変えることができる唯一の出会い、それがまさに聖書が語るイエス・キリストとの出会いです。その方は、あなた人生の過去、現在、未来のすべての問題を十字架ですべて解決されたからです(ヨハネの福音書 19:30)。そして十字架の事件は、まさにあなたのための事件でした。

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。
私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。
しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してください。イエス・キリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。
今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。
私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。
どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。
そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



どんな音が 聞こえますか？

地球で住むうちに私たちの耳には、限りなく多くの音が聞こえる。私が作った音もあり、他の人が伝えようとする音もあり、私の意志と関係なく聞こえてくる騒音も多い。私に有益な音もあって、私に害を与える音もたくさんある。音は固体、液体、気体の中で力学的な震動によって発生する。だから、地球のどこでもなんの音も聞こえない所は存在しない。ただ騒音を避けるために静かな所を求めて行くのであって、音が存在しない所はない。このごろはむしろうるさい音に慣れるどころか、中毒になって、音がない所を避けて、音が生成される機械をたくさん作って、そこに縛られて暮しているのが現代人だ。青少年は、ずいぶん前から、音の節制の限界を越えるようになってきているし、私たちも自分の行動を詳しく見れば、習慣的にラジオや TV、音響器機を使って音の中に入って行くのを見るようになる。

色とりどりの紅葉の秋も深まる中の道路に行く静かな日のドライブは、心をさわやかにさせてくれるのに、日の光に背を向けた葦は、爆竹が鳴るように派手だった。静かさを満喫しなければならない時間だが、手はいつのまにか、楽しくクラシック音楽のボリュームを高めて音を楽しんでいた。しかし、音の遊びに楽しさを味わう瞬間、自動車ごとに道路交通を助けるコンパニオンとしてカーナビがついているのに、クラシック音楽をつけていてカーナビの速度警告が聞こえず、スピードを出しすぎてしまった。

このごろは二人の女の言葉をよく聞かなければならないと冗談で言う。家ではうるさいが妻の小言をよく聞かなければならないし、外に出ればナビ嬢の言葉をよく聞かなければならないというのだ。ところで、二つの音を聞いて運転して、クラシック音楽に優先権を奪われてみたら、ついナビ嬢の音を逃して、速度違反をしたのだ。

私たちが忙しく生きる中で、こんな事は実はたくさん起きている。重要な事でも、ささいなことに導かれて重要なことを逃す場合も多くて、聞かなければならない音よりは聞かなくてよい音に集中して、価値を逃してしまい、荒唐なことになったりする。神様は、世の中の音の中に失敗の音を越して、成功の幸せな音(Gospel)を伝えていらっしゃる。ところが、その音が聞こえないことは、今、聞いている音のためだ。永遠を越えた永遠の音で、人生の苦しみの原因と回復のメッセージと未来の答えを知らせてくれているが、ひとつの音に集中して、重要な音を逃すので、価値を見いだすことができないのだ。クラシックの大きい音楽の音のため、ナビ嬢の普通の音を聞くことができずにスピードを出しすぎれば、違反切符が発行されて罰金を出して、気をつければ良いが、神様の愛の御声をいのちがある間に聞くことができなかつたら、その結果は愛ではなく残酷なことになってしまう。世の中の音はあまりにもたくさんで多くある。そこに比べて、神様の御声はとても小さいと言えるが、その小さな音を聞いて救われるたくさんの方がいるから、私の関心を永遠という周波数に合わせて耳をすませば、幸せの音が私に近づいて、世の中のすべての音より貴重な祝福を味わうようになるだろう。私の生活のボリュームをさげて、幸いな音を一度聞いてみてほしい。この地で聞こえる最高の美しい音なのだが、どんな音が聞こるだろうか？

チョン・ヒョングク 牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ